

## (採)

山の傾斜もゆるやかになり、新保の田圃が開ける所より路傍には、ウシハコベ、ユキツバキ、チチコグサ、ナワシロイチゴ、ニラ、サギゴケ、ヤマニガナ、カラムシ、アサツキ、コマツナギ、コウゾ、ツタウルシ、カラスノエンドウが観察され、山麓帯では、ヤマフジ、サルナシ、マタタビ、マツブサ、ノブドウ、サンカクズル、ツタ、クマノミズキ、コバノトネリコ、ヤブムラサキ、ハンノキ、シラキ、オオバアサガラなどが採集された。

本日の植物採集について要約するなれば、木の芽峠の頂上に於て、ブナ、ミズナラ及びハクウンボクの自生が印象的であり、トラノオシダ、サトメシダ、オオサトメシダ、ミゾシダ、クサソテツ、リョウメンシダ、フモトシダ、ヤブソテツ、サカゲイノデ、イノデモドキ、クジャクシダ、シシガシラ、トガリバメシダ、ヒメワラビ、ヤマイヌワラビ、ヒロハイヌワラビ、ヤマイヌワラビ、ヒロハイヌワラビ、ヤマソテツなどシダの類が多い事である。

尚、葉原地区の人家附近で林先生がキク科のハキダメギクを採集された本県では初めての採集との事であつた。

( 斎藤佐一 記 )

## 木 ノ 芽 峠 採 集 記

昭和35年8月8日 午前5時30分福井発の列車で荒川先生以下5名出発。途中堀館長等乗車。嶺北勢併せて約10名、敦賀で待つこと約1時間。いつもの事ながらももう少し早く連絡ができれば時間の空費が少なくすむと皆残念がる。9時30分三方駅で下車、地元中学の先生の案内で中学等併せて総勢約30名、そのためか三方湖を右手に、左は梅畑といった景色も冷風も満員バスでは如何ともなしがたく、10時海山で下車、全員ほんとうに一息入れての休息、しかし時間の関係もありただちに山麓帯の採集にかゝる。主な採集品は次のようなものであつた。

エノコログサ、メヒシバ、オヒシバ、イヌビエ、ヤマカモジグサ、イヌビユ、アオビユ、イノコヅチ、イヌタデ、イタドリ、ギシギシ、ミチヤナギ、アメリカセンダングサ、トキンソウ、オオアレチノギク、オニタビラコ、ノコンギク、オグルマ、カラムシ、アミガサソウ、コニシキソウ、ヤブジラミ、ツボクサ、チドメグサ、コゴメガヤツリ、ヤマイ、ムラサキカタバミ、イヌワラビ、イノモトソウ、トラノオシダ、オニヤブソテツ、タチシノブ、ウツギ、ナツヅタ、クサネム、ネコハギ、クルマバナ、ニワゼキショウ、エビモ、ナワシロイチゴ、テイカカヅラ、ツルシノブ、アキカラマツ、アケビ、キツネノマゴ、

梅丈山は三方町がハイキングコースの一つとして宣伝しているためか、観光道路とかいう道が中腹を縫うようになだらかな勾配が続いている。しかし我々採集を目的とした者にとつては陽地

植物にしかお目見えできないために、ヘソ曲り(?) 3名は途中で旧道を通る事にした。しかし旧道は大変な道で、道らしい道は炭焼き小屋迄、そこから頂上迄約100mは道らしきものもなく、かすかに見える展望台の屋根を目標に盲滅法に灌木の上を泳ぐように、時には地をはいながらのぼる。この道は誰にもすすめられないコース(?)である。頂上に着いたのは新道をのぼった人よりもわずか30分程早かつただけで、エネルギーの消耗は倍以上である。頂上に着くと同時に下着一枚になつて石板の上にねころぶのがせい一杯の仕事であつた。しばらくは昼飯をとる元気もなく、にぎり飯も2つ目迄はその味も判らずたゞ機械的に口に運ぶだけであつた。唯一つの取りえは途中で清水にありつけた事ぐらいであつた。頂上迄の採集品は次のようなものである

ボタンズル、センニンソウ、オグルマ、タンドボロギク、ヤマニガナ、コウヤボウキ、ヤクシソウ、サジガクビソウ、クサイチゴ、ニガイチゴ、カマツカ、オオウラジロノキ、ヤマイバラアカガシ、スダシイ、アラカシ、コナラ、シラカシ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、オトコヘシ、コウゾ、カジノキ、カラスザンショウ、マツカゼソウ、ウラジロ、ホナガクマヤナギ、ツクバネウツギ、ニワトコ、サイコクミツバツツジ、アセビ、シヤシヤンボ、コバノミツバツツジ、ホツツジ、ネジキ、リヨウブ、ムクノキ、ソヨゴ、ツリバナ、オオバイノモトソウ、マメヅタ、ホソバカナワラビ、ミゾシダ、オニカナワラビ、ジャケツイバラ、イチヤクソウ、イカリソウ、ダンコウバイ、シロダモ、ヤマコウバシ、ヒサカキ、サカキ、コアジサイ、サワアジサイ、モミジドコロ、アワブキ、ゴンズイ、ガンピ、アカシデ、イヌシデ、ヤマモモ、ヒキヨモギ、ツクバネ、サンカクスル、ノブドウ、ニガクサ、カワミドリ、トモエソウ、マツブサ、シキミ、ニガキトゲソバ、マツグミ、

頂上に全員着いたのは12時頃、若狭湾を左手に、三方五湖を右手に眺めながらの昼飯は、暑い日射を展望台の屋根でさえぎり、又格別のものである。下山も大半は新道を下つたが、4名は全員の水筒を肩に再び灌木を泳ぎながら清水のところにとどりつく。しかし新道の方を下つた人達の方が早く下に着いた事はいう迄もない。梅丈山は新道を登れば、日をあびながら長い道をだらだらと、旧道は急な坂にあごを出しながら、どちらにしても楽な山ではなかつた。

(竹内民雄 記)

## 吉峰寺、大仏寺山採集記

9月23日秋分の日を利用しての採集会、参加者は約15名、越前竹原で下車、吉峰寺に向う途中中田あり畑あり、又湿地ありと変化のある植相に中、高校生諸君は大変喜こんだ。ただ吉峰寺迄がやや遠く時間的に気をもませた。以下採集品は次のようである。

ケムラサキ、ハナタデ、イヌタデ、ミズヒキグサ、アキノウナギツカミ、ミゾソバ、ハナタデ、ムカゴイラクサ、カラムシ、クマノミズキ、ヤマボウシ、ツリフネソウ、チヂミザサ、ヌカキビ、トダシバ、アブラススキ、ヌメリグサ、スズメノヒエ、トウササクサ、チヂミザサ、キンエ